

東日本大震災から9年

3月11日に築地本願寺、仙台別院で犠牲者偲ぶ

東日本大震災の発生から丸9年を迎えた3月11日、地震発生時刻の午後2時46分から、東京都中央区の築地本願寺で追悼法要、仙台市青葉区の仙台別院でおつとめが行われ、犠牲者を偲んだ。



東京

午後2時46分になると築地本願寺の梵鐘が撞かれた。法要には80

人が参拝（写真）、安永雄玄宗務長が導師を務め、阿弥陀経をつとめた。安永宗務長は「親鸞聖人の説かれたみ教え

は、阿弥陀如来が本願力によって、凡夫の私たちを、必ずすくい取ってくださるという教え。不確かな現代に、この教えはますます輝きを増していると感じている。人生に無常を感じるので、念仏者としての私たちの生き方、生きていく意味を確かなものにするきっかけを、法要を通して心に留め置いていただければ」と話した。

参拝者の中には涙を拭く姿も見られた。東京都杉並区の中村哲生さん（42）は「昨年暮れに父と叔父を相次いで亡くし、いのちについて深く考えさせられた。大震災で亡くなら

貴重な機会となった」と話した。

法要後には、防災意識の啓発のために、本堂前で職員が災害備蓄品のクッキーを配布した。

築地本願寺では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、換気などの対応を行った。

東北

この日も、その焼香台には、朝から通りがかった人たちが焼香し、手を合わせる姿が見られた。

仙台別院（矢鳴俊哉輪番）は3月11日、午後2時46分から、阿弥陀経のおつとめを行った。また、津波の被害が大きかった太平洋沿岸部の宮城、福島両県の寺院でも、3月11日な

同別院は、震災犠牲者「月命日」にあたる毎月11日に、境内に焼香台を設置している。参拝した。